

## 1 八田與一の生涯についての簡単な説明

八田は1886年に金沢市で生まれ、東京大学の土木工学を卒業した。卒業後24歳のとき台湾総督府内務省土木課の技手として勤めた。そこから彼は56歳で没するまでほとんどの生涯を台湾に住み台湾のために尽くしている。彼は28歳から水利事業を担当し、設計工事の責任者として桃園の水利事業以降は第一人者として技師として認められることになった。また彼は、当時アジアと言われた烏山頭ダムと一万六千キロに及ぶ灌漑用水路の建設にあたり、人情味のある現場責任者として農民に慕われた。彼の有名な主張に次のようなものがある。『烏山頭は大きな工事であり困難も伴い時間もかかる。働く人たちが安心していい仕事ができるために家族が一緒じゃないといけない。』

参考：<http://www.a-eda.net/asia/hattal.html> (2015/04/23)

## 2 これから私たちが開発を習う上で見習うべきところ

八田の高い専門性を見習うべきであることは言うまでもないが、注目すべきは彼と現地の人たちとの親交の深さである。上記から八田は現地の人たちのことを思いやり、深く理解していたに違いない。これはその土地の文化や慣習の理解ということ以前に人間に対する深い理解が根底にあるのだろう。彼の主張にはそのことがよく読み取れる。私たちは彼の土木工事に対する態度からとても多くのことを学び取ることができるが、開発というものが結局は人間対人間の営みであるということは改めて認識しなければならない最も重要な事項である。